

## CA19-9 高値を呈した腎盂癌の1症例

◎久住 裕俊<sup>1)</sup>、伊藤 友香<sup>1)</sup>、山内 久世<sup>1)</sup>、平松 直樹<sup>1)</sup>  
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

CA19-9は大腸癌培養細胞に対するモノクローナル抗体によって認識される糖鎖抗原であり、唾液腺、胆管、気管支腺などの正常組織中に存在する。CA19-9は消化器癌、特に膵臓・胆嚢・胆管の癌において高い陽性率を示すことが知られているが、泌尿器領域での陽性の報告は少ない。今回、血中CA19-9が高値を呈した腎盂癌の症例を経験したので報告する。

## 【症例】

患者：76歳、女性。主訴：不正性器出血。既往歴：17歳虫垂炎手術。家族歴：父方祖母 心臓病、母 肺癌。喫煙歴：なし。現病歴：不正性器出血で近医を受診し、卵巣腫瘍を指摘され当院紹介となった。子宮・卵巣造影MRI検査で右卵巣に6cm大の良性腫瘍（漿液性嚢胞腺腫疑い）を認め、手術適応となった。術前の血液検査で血中CA19-9の高値を認め、漿液性嚢胞腺腫のみで腫瘍マーカーの上昇は考えにくく、腫瘍マーカー上昇の原因検索目的で腹部超音波検査が施行された。血液検査：CEA 5.2 ng/mL（基準上限 5.0

ng/mL）、CA19-9 107 U/mL（基準上限 37 U/mL）、その他の腫瘍マーカーは基準範囲内であった。腹部超音波検査：左腎盂～尿管にかけて充実性腫瘍が充満し左腎盂の拡張を認めた。左腎門部に11mm大の低エコー腫瘍を認め左腎盂癌およびリンパ節転移を疑った。右下腹部に55mm大の嚢胞性腫瘍を認め、右卵巣嚢腫に矛盾しない所見であった。造影CT検査：左腎盂内に造影効果を有する腫瘍が充満し、左腎門部には腫大したリンパ節を複数認め、左腎盂癌（cT3N2M0）と診断された。経過：化学療法を優先しその効果があれば手術を考え、現在は化学療法中である。

## 【考察】

泌尿器領域におけるCA19-9高値は腎盂癌のみならず水腎症などの良性疾患でも高値を呈すると報告がある。本症例は化学療法中であり、CA19-9産生腫瘍であるか水腎症による高値を呈した症例であるかの判別はできていない。CA19-9は泌尿器領域における特異的な腫瘍マーカーではないが、尿路系腫瘍も念頭に置くことは大切であると考える。

連絡先 054-247-6111(8220)